



入選作品

不機嫌な君は頬張る夏氷あっかんべーと青いべ口出す

宮城県宮城第一高等学校

一年

菅 凌太郎

本棚に沿って私は歩いてく世界の数だけ湧く好奇心

愛知県立豊橋西高等学校

二年

佐藤 秋雅

書く度に失っていく青春の対価にもらう選外通知

秋田県立秋田北高等学校

二年

相場 一杜

夕暮れを告げる鳥の鳴き声が昨日と違う一人の家路

愛知県立豊橋西高等学校

二年

中村 颯汰

夕暮れの横断歩道を闊歩する世界が私のためだけに染まる

秋田県立秋田北高等学校

一年

角崎 良佳

青汁の粒の濁りに丸を描く志望校また下げろだなんて

名古屋高等学校

一年

大塚 宣孝

頬の上つたい落ちてく汗の中瞬く青があった気がした

神奈川県立光陵高等学校

二年

森 葵唯

頑張れの声があるから頑張れるその八割が建前なのに

名古屋高等学校

一年

山田 真滉

せーのって声を合図にとびこもう等間隔にすぎてく日々へ

神奈川県立光陵高等学校

一年

藤井 渚央

8月の熱から逃げよとコンビニへ青いソーダアイス汗かく

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

安道 心音

青虫の一步一步が春深め私は強くペダルを踏み込む

愛知県立豊橋西高等学校

二年

早崎 苺亜

ふて寝していじけていたら指先に青いネイルと母の優しさ

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

石破 真緒

青色のペンキをびしゃっと振りまけば春の嵐がいまここに来た

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

太田 絢女

授業中窓から見えた空と海ノートに広がる青色のペン

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小橋 花音

青色のバケツの中にまたひとつまたひとつ手の花火消えてく

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

岡村 梨央

青空にぽかりと浮かぶ白い雲同じ立場になれるだろうか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

近藤 れい

青い方しかないスリーディーメガネしか見ることの無い不思議な世界

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

加藤 綜真

ふとみあげ空一面に青一色丸くやさしく包んでいたよ

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

佐藤 美桜希

青い空見ずに終わった1日の僕は布団で動かずにいた

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

城戸 洋輝

おつかれとオール運んで空見上げ初めて気づく夏の青さに

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

谷口 晴

あんなにも美しかった青空がどうして夜に黒くなるのか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小谷 虎太郎

初めての沖に出た日の透明な青の底にははっきりと砂

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

田原 志桜

空の色なんで青いか知っている君の力説ソーダのアイス

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小谷 空

何色が好きかと聞かれ思い出すあの子は確か青色が好き

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

田村 郁奈

トンネルを抜けたら海と空の青列車が揺れて肩がぶつかる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

寺谷 陽菜

あの人と二人で歩く帰り道向こうの景色がゆっくり進む

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

加藤 綜真

喧嘩した腫れたまぶたの朝の庭のトマトはまだ青かった

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

廣瀬 郁美

オレンジに包まれている散歩道広がり続けるふたりの話

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

川戸 美岬

青空と海とヨットと太陽と次はこの絵に何を足そうか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

前田 虹太

今はないここに大きな木があった少し止まってまた歩きだす

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

小谷 虎太郎

移りゆく青い季節の十五年カメラの中のインサイド・ヘッド

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

水口 詞美

今日だけは歩きのきみとふたりきり心のペダル力強く踏む

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

坂本 晃輔

球を追い汗を流して水を浴び青よ見ている僕は輝く

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

渡邊 陽光

よこならば自転車おしっつ歩くみち長い道のり短く感じた

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

田中 未菜

盆休みいところを連れて散歩する見下ろす一步が私の三步

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

岡村 麻央

かえり道影に追われて歩くとき一人の音を強く感じる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

谷口 晴

歩いてる。行く先はまだわからないでも前へ行くそれしかできない

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

平尾 優衣

またひとつ産声きこえ世界には僕は知らない命がやどる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

太田 直希

帰り道星を頼りに歩く僕密林をゆく歩兵のように

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

松原 光汰

マスク取り大きな声で笑い合うそんな日がまた来ますように

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

杉本 琴奏

歩きたびどんどん消える足跡が今の私を成長させる

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

水田 瑛結

君を待つ僕を包み込む蟬の声本当に君は来るのだろうか

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

中山 琉生

別れたら歩幅気にせず帰る道歩幅大きいため息でかく

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

宮脇 遥規

僕たちの今は出せないその声が誰かに届くその時を追え

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

前田 清花

テーブルにバツと広げた日本地図伊能忠敬の歩幅が鳴った

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

山口 結生

また来るねわたしが言ったあの声は祖母の耳にはとどいていない

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

安田 芽愛来

エスケープ尾崎豊の吼える声23時に歪む√2

鳥取県立鳥取東高等学校

一年

石破 真緒

青を溶く君の絵筆を目で追った視界いっぱい星空を見る

鳥取県立米子東高等学校

一年

原 乙嘉

先輩の前歯についた青のりは伝えるべきかそうでないのか

青翔開智高等学校

一年

藤原 夢叶

全力でバトンを渡す「はい」というかすれた声も友は背に聴く

山口県立光高等学校

三年

深谷 乃梨子

手にしたい輝き目指し歩きたび僕の影さえ照らされてしまう

青翔開智高等学校

一年

藏増 凌生

青空の浜辺飛び立つ海鳥を水の鏡に映し出す影

米子北斗高等学校

二年

田辺 社人

散歩中どこかで君の声がして前髪直す十七の春

米子北斗高等学校

二年

久保田 紗月

車窓では光り輝く青い海がてのひらの中透明になる

山口県立光高等学校

二年

榑崎 みなみ

人生の岐路に立つ日の十七歳歩みを止めて小走りになる

山口県立光高等学校

二年

窪野 星夢